

厚生文教委員会行政視察報告

視察第1日 滋賀県 野洲市健康福祉部 高齢福祉課
令和6年7月22日(月)午後1時30分より

視察先・視察項目

滋賀県 野洲市役所にて

「要支援高齢者等世帯の家庭廃棄物の搬出円滑
化に係る地域方策の促進に関する要綱について」

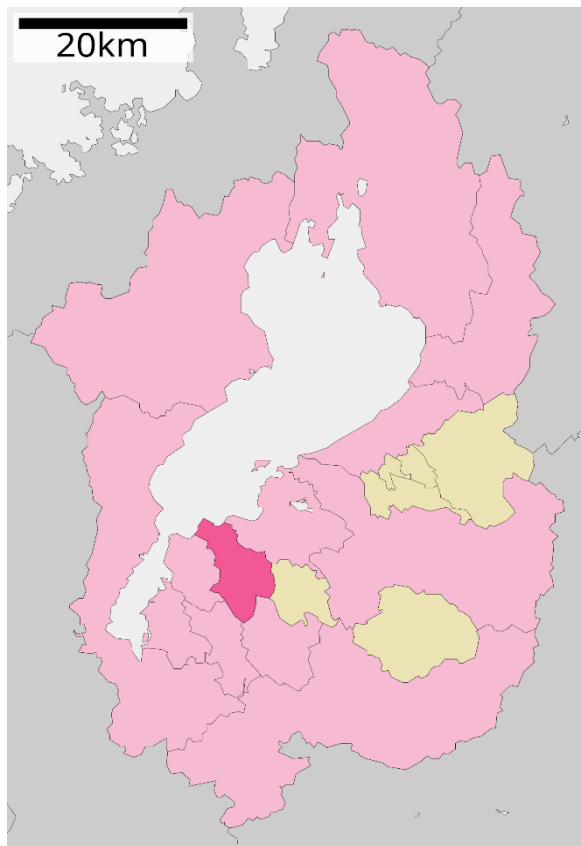
視察目的

新城市でも近年、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、障がいをお持ちの方などの生活ごみの搬出の方法が問題になっているため、規模も比較的妥当だと考え、先進事例になると考え伺った。



<滋賀県 野洲市役所本館正面玄関>

滋賀県 野洲市データー



野洲市（やすし）は、滋賀県南部にある市。琵琶湖の南岸に位置する。

平成16年10月に旧中主町と旧野洲町が合併し誕生した都市で、東西10.9キロメートル、南北18.3キロメートルに広がり、面積は80.15平方キロメートル。

面積 80.15km² (499.23km²)

総人口 50,164人 (41,588人)

人口密度 626人/km² (83.3人/km²)

※カッコ内は新都市のデーター

※ウィキペディア 野洲市より

野洲市議会出席者

野洲市議会 議長 山本 剛
書記 赤坂 悦男

野洲市執行部出席者

健康福祉部 高齢福祉課
課長 今在家 知子
課長補佐 村山 恵子



<視察の様子>

調査テーマ

「要支援高齢者等世帯の家庭廃棄物の搬出円滑化に係る地域方策の促進に関する要綱について」

対象者

ひとり暮らしの高齢者・高齢者のみの世帯（障がい者含む）

支援内容

ごみ出しが困難な世帯に対するゴミ出し支援をどうしていくのか

野洲市の協議・実施状況

この制度は、配慮が必要な高齢者や障害者を支援する介護ヘルパーを朝早くから派遣し、当日の朝8時までに集積所にゴミを出すことが困難であるという、現場の声から生まれた制度である。

平成29年11月から平成30年3月まで、環境課、市民生活相談課、地域生活支援室、健康推進課、地域包括支援センター、高齢福祉課、社会福祉課が連携し、ゴミ出し支援について協議を重ねた。はじめの協議では、環境課から、高齢化が進むにつれて、ゴミ出しの支援が必要になってくることは理解するが、市民やケアマネジャーから直接相談を受けたことがない、との発言があり。問題の捉え方に各課で温度差があることが分かった。他市の情報を共有した上で、野洲市で出来るゴミ出し支援の案を各課での意見交換を通じて協議、ケアマネジャーと相談支援専門員にアンケートを実施し、その結果をもとに、回収時間の変更や戸別収集の方法などが検討された。東京都日野市の事例を参考に、前日からのごみ出しを認めるシール交付方法が採用され、対象者の把握、対象条件、要綱案、シール作成費用、個人情報取り扱い等、具体的な詳細について協議が進められた。具体的な協議課題は以下の内容である。

- ・平成30年度中のシール交付実施に向け、関係課での詳細な協議を継続。
- ・自治会や民生委員等からの意見も反映し、再検討を実施。
- ・市長への説明と方向性の確認。
- ・自治会、民生委員、ケアマネジャー、ヘルパー等に事業説明と協力依頼。
- ・事業要綱案の作成。
- ・広報・HP・ケアマネ連絡調整会議等で周知。
- ・平成31年度ごみカレンダーに事業概要説明と地域の理解・協力依頼の内容掲載。
- ・自治連合会役員会にてごみ出しシールの説明と意見照会。

現在の運用方法

協議が進められた結果、以下ようになった。

- ・申請書は1回のみでよい。
- ・利用者87人（令和6年7月現在）。
- ・自治会からの不承認は一度もない。
- ・お助けシール初回に200枚交付し残り少なくなったら担当課に連絡してもらい郵送や窓口に取りに来てもらう。

現在の課題

人口減少による人手不足が懸念されるため、有償ボランティアや地域の方の協力で事業を維持する方法を検討している。

まとめ

野洲市の高齢者ゴミ出し支援事業は、ケアマネジャーやヘルパーからの声をきっかけに始まった。市の関係部署が協力し合い、他市の事例を参考にしながら、具体的な支援策を検討した結果、前日からのゴミ出しを認めるシール交付方法というシンプルで効果的な解決策にたどり着いた。

この方法はコストも少なく、地域の負担を軽減しつつ、高齢者や障がい者の生活を支えるものとなっている。

この事業の成功の鍵は、各関係部署が積極的に意見交換を行い、地域の実情に合った柔軟な対応を模索したことにあると感じた。さらに、ケアプランにゴミ出しサポートを組み込むことで、地域負担も少なく行政と地域が一体となって取り組む姿勢が見受けられた。

特に、町内の区長や自治会の理解と協力を得て、前日夕方4時以降のゴミ出し許可を実現した点は、地域の共助の精神が発揮された素晴らしい事例である。



＜野洲市内のごみステーション＞

新城市においても、このような取組を導入することは可能だと思うが、地域ごとの特性に応じた調整が必要である。野洲市では、すべてのごみ集積所（816箇所）がBOX型になっているため、前日にゴ

ミを出してもカラスや猫による被害が防げる点がポイントであった。一方、新城市内では、網を被せるだけのごみ集積所も多く存在するため、そのままのシステム導入は難しいかもしれない。

しかし、ケアマネジャーや地域の区長や自治会と連携し、利用者の家から近いBOX型の集積場所とするなど、ゴミが荒らされない工夫や対策を講じることで、同様の支援を実現できる可能性があると思う。ゴミ屋敷状態を防ぐことは、地域の環境改善にも寄与する重要な取り組みとして新城市にも提案していきたい。同時に、市内のごみ集積所を徐々にBOX型に変えていく事で、地域全体の環境保全にもつながると考える。



＜野洲市内のごみステーション＞

担当 新城市議会 厚生文教委員会 新城市議会議員 浅尾洋平
今泉吉孝